

平成
27年度

決算額111億円の使い道

平成27年度の町の収入と支出の実績を表す決算が、町議会定例会9月会議で認定されました。一般会計では歳入が約111億円、歳出が約106億円となりました。ここでは決算の概要について紹介します。

総額が6年連続で100億円超 今年度も高い自主財源比率を維持

歳入総額は前年比6.0%増加
町税は前年比約1億3千万円減少

町に入ってきたお金（歳入）の総額は約111億円で、前年度に比べて約6億3千万円増加しました。

主な内容は、国庫支出金が障害者支援事業や地方創生事業などにより約8千万円の増加、県支出金が矢巾スマートインターチェンジ整備事業などにより約1億円の増加となりました。また、地方消費税交付金、地方交付税が合わせて約2億3千万円の増加となりました。町税などの町がみずから収納して使えるお金「自主財源」は50.3%と、前年度に比べて1.8ポイント減少しましたが、町税は総額で約35億6千万円と高い数値を保持しており、健全な財政運営の大きな力となっています。

今後、厳しい状況は続くと思われませんが、自主財源の確保と自主的な財源による事業運営の推進に努めてまいります。

農林水産業費が前年比34.4%増加
教育費が前年比17.2%増加

町が使ったお金（歳出）は、約106億円で、前年度に比べて約6億円の増加となりました。

主な内訳は、農林水産業費が農地中間管理事業、農業基盤整備事業などにより約1億9千万円の増加、教育費が町民総合体育館耐震補強事業、公民館図書室移転事業などにより約1億2千万円の増加となりました。

なお、平成25年に発生した豪雨災害に伴う復旧事業がおおむね完了したことにより、災害復旧費が約3億2千万円の減少となりました。

今後は、矢巾スマートインターチェンジ整備事業が本格化するほか、第7次矢巾町総合計画前期基本計画の推進に取り組みことにより、引き続き業務の効率化と支出抑制を行いながら、健全な財政運営に努めてまいります。

▼歳入用語解説

国庫支出金：事業に対する国からの補助金

県支出金：事業に対する県からの補助金

地方交付税：町の財政力に応じて国から交付されるお金

自主財源比率：歳入全体のうち、自主財源がどのくらいあるかを示す割合。この数値が高いほど国や県に頼る割合が少なく、財政が健全であるといわれています。

▼歳出用語解説

総務費：一般事務経費や財産管理積立金など

民生費：老人福祉や障がい者福祉、保育園費など

衛生費：病気の予防のための各種検診やごみ処理、し尿処理など

農林水産業費：農業の振興や農道の整備など

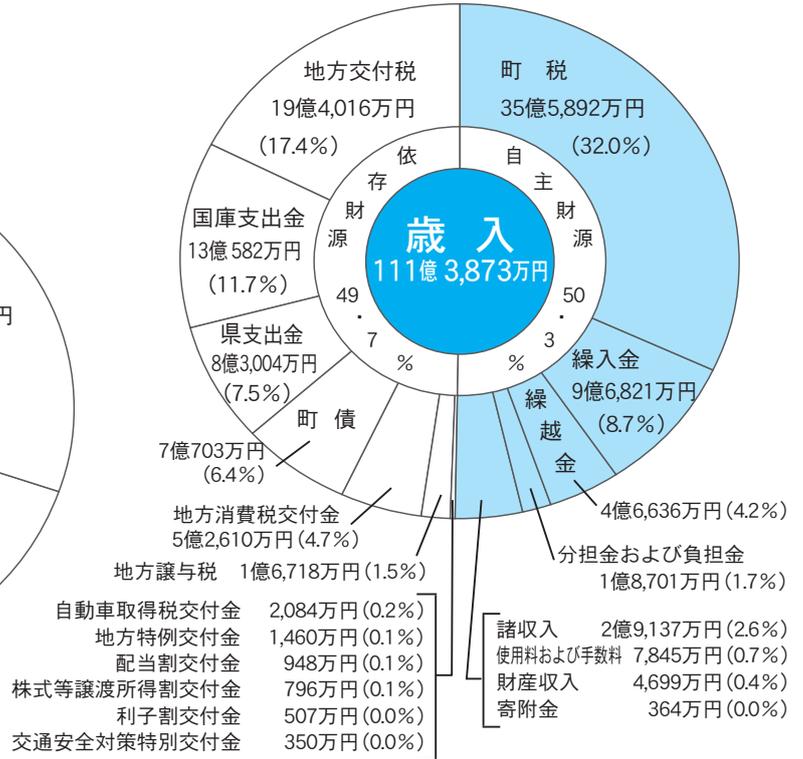
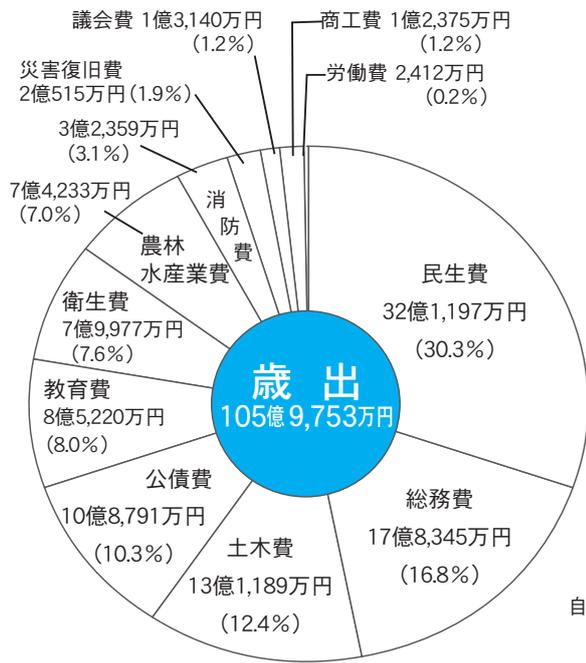
土木費：道路整備や区画整理、下水道整備、河川や橋の整備など

公債費：事業を行うために借りたお金（町債）の返済金

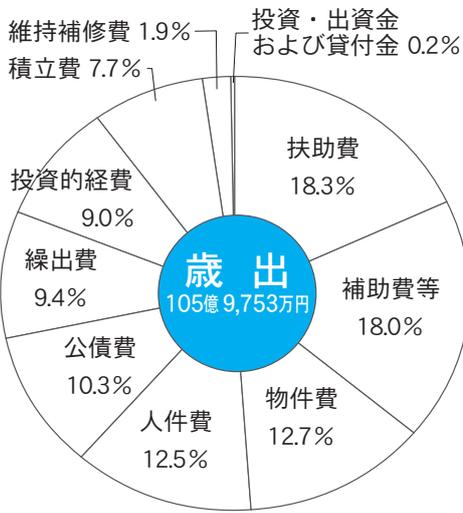
実質公債費比率：公債費が財政に及ぼす負担を表す指標。一般に、この数値が低いほど財政状態が良くいとされています。

町の財政状況【平成 27 年度決算】

平成 27 年度 一般会計決算の構成

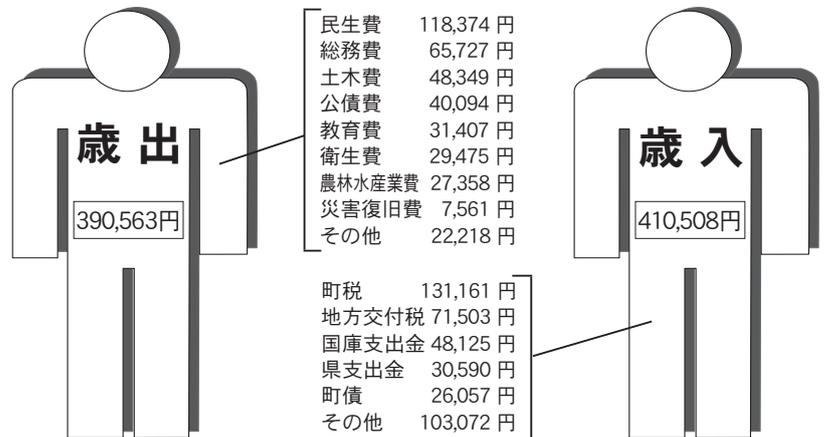


歳出の性質別内訳



町民 1 人あたりに換算すると…

(平成 28 年 3 月末の人口 27,134 人で計算)



平成 27 年度特別会計・企業会計の決算

会計名	収入額	支出額	会計名	収入額	支出額
国民健康保険事業	31億 395万円	29億 8,290万円	水道事業	収益的	6億 9,853万円
介護保険事業	19億 3,340万円	18億 8,164万円		資本的	5,554万円
後期高齢者医療	1億 7,150万円	1億 6,982万円	下水道事業	収益的	12億 3,526万円
矢幅駅周辺 土地区画整理事業	17億 9,370万円	17億 8,975万円		資本的	7億 3,750万円

(千円を四捨五入)